
小説　主人公

hentai be-sisuto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小説　主人公

【NZコード】

N3875P

【作者名】

hentaibessisuto

【あらすじ】

短編小説です。短編です。

主人公

やあ、どうも。この小説の主人公です。主人公ですよ。主人公。
褒めてください、すごいでしょう。え、褒めてくれないんですか？
それはひどいな。

僕はもうじき死ぬですから、最後に少しくらい良い思いをさせてくれたつていいでしょ。なんで死ぬかつて？そりやあこの小説が終わるからですよ。作者は短編が好きですから、僕の命は桜の花より短いでしょうね。ええ、言葉の通りに。

お前は作中で殺されるのかって？いやいや、そんなことないよ。作者はやさしい良いやつさ。だから僕の頭をつぶすこともないしかかとを攻撃されると死ぬみたいなこともないさ。・・・君は物分かりが悪いねえ。この作品が終わるってことは僕が終わるってことだろ。作者が書き続けている間だけ僕は生きているんだ。終わったらそこで終わり、人生みたいなものさ。となると、僕も人生を歩めたつてことになるのか。

僕は生きていないつて？そりやあひどいね。僕は確かに作者に動かされているけど、君たちだって、遺伝子があつてそれに与えられる情報の組み合わせによって生きているだろう。それには君らの意志がないじゃないか、君たちも元から決まっていて環境に反応を室つけているだけなんだよ。つまり、自分じゃ動いてないつてこと。ほら、一緒だ。でも自分で動いているでしょう。僕だってそうなんだよ。作者に動かされているだけでね。

君はこれを読んだ人々のここの中でも生き続けるつて？そりやあ冗談つきijo。これを読むのだって、この卑屈な作者の仲の良い二、三人くらいだろう？それにこんな小説じゃあ誰の心にも残ら

ないさ。偉大な小説の主人公になれなかつた僕は、すぐに朽ちるのさ。

いやいや、励まさなくてもいいよ。僕にはわかるんだ。それにさ君らも似たようなものだろう。偉大な人物は後世に語り継がれ、君らのような凡人はその時代に民衆がいた、その一部である、くらいにしか思い出されないのでしね。お相手つてことで。

え、馬鹿にするな？ 君が何かを成すとは思えないなあ。だつて、
・・ねえ。憤りを感じる？ やるせなさを感じる？ いやいや、僕
もだよ。僕もやるせないさ。作者が僕を主人公にしたから悪いんだ
よ。でもまあ、作者のせいにするつもりはないさ。僕だって、僕自
身がもつと素晴らしい感受性やもろさを持つていたら、一斉を風靡
するような小説を作者に書かせられたんだ。僕にはこの小説が分相
応だし、これに出るのもおこがましいのかもしれない。それくらい
感謝しなくちやね。君らだつてそつだよ。民衆の一部として後世に
残れるんだ。胸を張ろうぜ。

ああ、最後に良い思いをしたかつたよ・・・。でも、この小説に出られただけで、感謝すべきなのかもな・・・。

・・・お？　おお？　おー・・・。女が現れたぞ。ん？　ふむふむ。
そういうことか。作者！　ありがとう！　君は二流で、きっと売れ
ないだろうけれど、慈悲だけは持つていたんだね。君は良い作者だ。
頑張ってくれたまえ。・・・では、少し失礼するよ、むふふ。

・・・ ああ、よかつたよかつた、なんて美女だったんだろうね。完璧だ。ああ、よかつた。最後とは言え、最後にこんな体験ができるよかつたよ。そして僕にこの幸福感、この機会をもたらした作者よ、ありがとう！

さてさて、そろそろ終わりかな。いやいやまだ、ページはあります
だ。ふむ、ここで僕が黙ってしまつたら小説は進まなくて、僕は死
なのでは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・。どうもうまいかないみたいだね。それにし
てもさつきの女はよかつたよ。若い良い女だつたよ。

ん？ 女がでてきてしまった？ そうか！ それはまずい。僕意外にも死ぬ人間がでてしまったのか。ああ！ 僕はなんてことだろう。作者君は人殺しだ！ 女を出したのだ。その女も僕と一緒に死んでしまうではないか！ ああ、良い女であったのに、おいしい事だ。可哀想だ。

はあ・・・。作者よ・・・。なんで僕を生んだんだ。こんなことなら生まれるんじゃなかつたよ。僕は一瞬で生まれて、一瞬で消えるのか？ ・・・。おい、作者。適当に、東大卒、イケメン、天才、華族出身、偉大なこと成した、バックストーリーは壮絶感動、などなど。って付け加えるな。・・・いやいや、俺はなんだかすごい人物な気がしてきたぞ。これは良い気分だ。これはいい。他人を見下してしまうぞ。ああ、良い気分だ。さつきの女は俺にとっちゃや、まあまだな。はつはつは。いいぞ、いいぞ作者。作者、お前も小さくみえるぞ。卑屈、低能、ボンクラ、愚昧・・・、ああすべての罵詈雑言がお前にはあてはまるぞ。はつはつは。それにしても小説というものは薄いなあ。この程度で一人の人間が出来上がつたぞ。俺様が書けば、きっと大作傑作ができるだろう。ふふふ、楽しみになつてきたぞ。

おい、作者！ 小説を書かせる。俺はお前とは違つて天賦の才があるのだ。さあ、書くぞ。

主人公作、かつてない小説、鬼才の作家の処女作、大ヒット！

ほらみろ、俺様はすごいのだ。みたか根暗め。お前とは圧倒的に違うんだよ。みたか俺様の実力を。お前には到底およばないだろう。なあ？

ふう、そろそろ俺も寿命か。偉大な書物も残したことだし、ひとまづは死ねるな。うむうむ。我ながら完璧な人生だつたよ。うんうん。きっと君たちには到底およばないさ、はつはつは。でも卑屈にならなくていい。俺様のような人間はなかなかいないからなあ。

羨ましいか？ ふふふ。

まあ、そろそろお前たちにも話すことはないな。それにお前たちのような下賤な人間達と話すのは詰まらん。御免だ、御免。

はつ、こんな屑な作者の小説にでも、めつきり御免だね。俺に作者は到底およばないしね。下等の極みだ、作者、貴様は。ああ、口惜しいか？ 悔しいか？ いやいや、悔やんじゃいけねえって、これはな天が与えたものなんだ。お前は俺の細胞一つに満たないよ。それじゃあな。作者。俺はお前と話すのも飽きた。さつき言つた通り、お前は最低の人間だしな。俺としゃべれた事をせいぜい誇りに思つて生きりよ。じやあな。

この男は直後に、頭がつぶれ、かかとに矢が刺さり死亡。女は良いと男と出会い、一生幸せに暮らしましたとさ。

* 注意、この小説は星新一さんの短編の中の一作から着想を得ています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3875p/>

小説　主人公

2010年12月9日03時07分発行